

大規模増殖場開発事業調査

— 大 間 地 区 —

(要 約)

足助 光久・三木 文興・沢田 満・植村 康
仲村 俊毅・永峰 文洋・尾坂 康・中村 春二[※]

マコンブを対象とした大規模増殖場開発事業は、今別地区では昭和47年～49年度、石持地区では昭和50年～51年度に調査が行なわれ、それぞれ昭和50年度、52年度から事業が行なわれている。

大間地区は本県におけるコンブの主産地（県コンブ生産の50%を生産）であり、コンブ漁業に対する依存度は大きいですが、隔年豊凶などにより、生産は不安定である。

本地区の事業構想は、今別および石持地区と同様な考え方であり、低利用砂礫地帯に石材、ブロックなどによる増殖場を造成し、コンブ生産の増大と安定をはかることにある。

調査期間は昭和51～52年度の2年間で、昭和51年度は、主として生物および底質などの漁場環境調査（大間町地先、地区の約1/2の区域）および埋没状況やコンブ付着などを知るための試験施設の設置と若干の追跡調査を行なった。

昭和52年度は、佐井村地先の漁場環境調査を行なうとともに、試験施設について追跡調査を実施し、施設の埋没状況、コンブの付着状況などについて知見を得た。また、大間および佐井地先のコンブ投石事業について調査した。

以上の2年間の調査により、開発適地および開発方式などについての基礎資料が得られたが、現地調査に際し、種々御協力をいただいた大間町および佐井村役場、大間、奥戸、佐井各漁業協同組合に対し厚くお礼申し上げます。また、潜水調査、生物測定に協力された青森市、マリンダイビング・マック 今正雄氏他の各位に謝意を表する。

詳細は「大規模増殖場開発事業調査総合報告書 一大間地区一 青水増資料 S53-Ⅱ5」
または「大規模増殖場開発事業調査総合報告書 昭和53年度版 水産庁」を参照されたい。
註）※：青森県大畑地方水産業改良普及所